

能登 いまい農場だより 11月号

お買い上げ頂きありがとうございます。

日に日に寒さが増してくる感じです。能登の紅葉はこれからですが、ちらほら色づいてきました。

新米如何でしたでしょうか？季節の変わり目といいましょうかこれからの天候、お客様にはご健勝であられることを望みます。

■メダカの棲む田んぼ、そして冬水田んぼ —生きものとの共生—

当農場には、マルタニシが多くいる田んぼ、アカハライモリが多くいる田んぼがあります。そしてメダカも(いずれも環境省のレッドリスト)、メダカは田んぼの用水から入ったと考えられます。u字溝の目地から素通りして、年中水口部分に水が溜まっています。そのため秋には面倒ですが手刈りで部分刈り。4年ぐらい前からいることは分かっていた



(コンバインのわだちにメダカ)

のですが、作付け期間中は稲に隠れて発見出来ませんでした。そばの用水を泳いでいるのは目視で確認したのですが、収穫刈り取り時に気づきました。田んぼに留まったメダカもいたんですね。

田んぼの生きものにとって水は重要です。マルタニシ、アカハライモリも水気のある場所を好みます。それぞれが棲む場所は200から300メートル離れているのですが、土質がちがいます。経験から、マルタニシの棲む田んぼではあまりに乾田化しすぎると、翌年のタニシの発生率が低くなります。また、カメ虫の仲間であるオオコオイムシも水気のある土壌を好みます。

当農場では、これから畦の補修(あぜ塗りなど)をして、冬水たんの準備にかかります。

■これからの作業

先般、玄米用色彩選別機本体のエア-の取り付け部分が劣化して故障、20年ぐらい前には色彩選別機はほとんどの農家には導入されていませんでした。有機栽培や、減農薬栽培が広まるにつれ、カメ虫による斑点米や着色粒を除去するために今では一般に導入されるようになりました。検査を受けるため、消費者の皆様への安心安全の取組でも、必需品となりました。糞摺りも、ようやくガグラモ子を残すのみになりました。

ダイズの収穫もこれからです。背の高い雑草が生えているため、除去してからダイズコンバインで収穫します。

■有機栽培コシヒカリ・特別栽培コシヒカリについて

当農場ではコシヒカリを栽培するにあたり、こだわりをいくつも持って栽培しています。

1). 極力、有機肥料を使用する(窒素成分換算)

有機栽培は無論ですが、特栽培コシヒカリも有機率100%を目指しています。

2). 健苗を心がける (農薬に頼らない米作り)

苗作りに最新の注意をはらう。 がっしりした苗 病害虫に強い苗作りを目指します。

3). 田植えは早期植えしない (農薬に頼らない米作り)

8月中旬に穂が出揃うよう心がける

7月下旬~8月上旬に出穂し、カメ虫の活動が活発な時期を避ける

4). 特別栽培米こしひかりについて

初期除草剤2成分入りを使用、他の農薬は使用しない。

5). 刈り取りは十分熟してから行う。

6). 刈り取り・乾燥は十分時間を掛けておこなう。

風味を損なわないよう時間を掛けて乾燥

7). 調整は1.85ミリ以上の網目を使い、お米の調整歩合を向上させる。

8). おいしさへのこだわり

お米は低温倉庫で貯蔵し、お客様からの注文を受けてから、精米発送致します。

お陰様で、ご近所の評判は上々です。「他の人のとはなんか違う、おいしいわ」との声が入ってきています。個人の感想と言われればその通りなのですが、今後ともごひいきによりしくお願いいいたします。